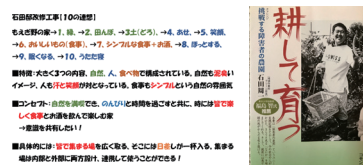


○参加のデザインによる設計・施工のプロセス 【共振する力】

築40年の住宅を改修し、「農+福祉+まちづくり」をコンセプトにシェアハウスを創るべく、施主の10の連想、著書「耕して育つ」からヒントを得ると共に、既存住宅の良さを活かす設計を目指しました。既存の特徴として、鶏の置物和室と庭の繋がり、しっかりと木構造がありました。既存の改修と増築部分の間取りについて様々な検討を施主と共にしました。施工段階では、床下の炭敷き、郵便ポストウッドデッキ等が施主参加で施工されました。



Before



既存2階平面図

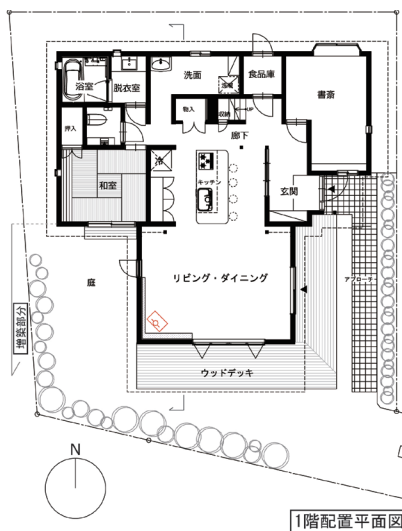


既存1階平面図

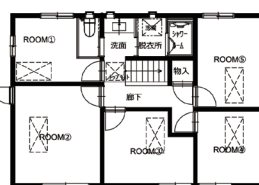
After

【田園都市生活シェアハウス】

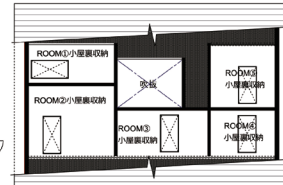
農+福祉+まちづくり



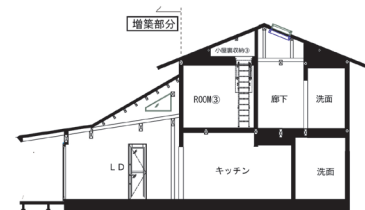
1階配置平面図



2階平面図



小屋裏平面図



断面図

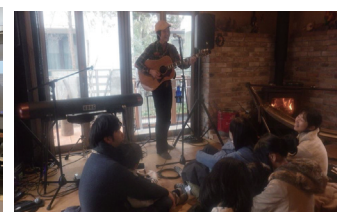


○デザイン 【美しさ】

既存建物の2階に5住戸と小屋裏収納を設けました。1階は共用スペースとして、和室、浴室、キッチン等を配し、それと繋がる形で増築部をリビングとして配置しました。亡き父親の書斎は、オーナーの住戸として改修しました。階段室の上部にトップライトを設け、既存のりっぱな梁が表出するようにしました。キッチンは皆で料理ができるようアイランドタイプとし、カウンターを併設するデザインとしました。外観は大庇の先端をとがらせ、屋根を一部上げることにより鶏のイメージを反映させたデザインにしました。

○使われ方 【美しさ、そして共振する力】

施主の農業、福祉、まちづくり活動お拠点として協力者と共に様々な使われ方がされています。収穫祭として、作ったものを皆で料理して食べる食事会、勉強会、音楽会などのイベントを通し、居住者と協力者がシェアハウスで繋がりが共振する力となっています。



参加のデザイン、既存を活かす、農業、福祉、まちづくり、協働する共有スペース、集う、田園都市生活、インフォーマル、米と味噌